発刊に寄せて

〈安井 俊夫　アドバイザー〉

平成二十七年は終戦七十周年、人間でいえば、古希の長寿を祝う年であった。国をはじめ日本の各地で、記念行事として戦争と平和に関する講演会や展覧会などが数多く開催された。平和の重みやありがたさが、再認識、再評価された年でもあった。

こうした中で、私たちの長久手市は、平成二十六年九月三十日に「長久手市非核平和都市宣言」を定めた。更にその都市宣言の実効性を高めるために、市民から要望の強かった戦後記念誌を発行することになった。これまでも個人で体験談を書きまとめ、語り部活動を行ってきた人もあり、積極的な取組体制として市民主体の委員会が設けられた。

高齢者揃いの委員会にも拘らず、自らの戦争体験をぜひとも次の世代へ伝えたいという皆さんの熱意がこの体験談に美事に結実し、実りの多いものになったと確信している。

併せて中学生十五人の感想文「平和への想い」は、体験談と並んで平和への若き想いがしっかりと書きまとめられており心強く想う。

戦争体験談　寄稿文

太平洋戦争が終って今年で七十一年。有史以来経験したことのない激しい戦争と敗戦。多くの人命が失われ、国土は都市を中心に焦土と化し、全国民が戦乱の苦しみを経験しました。

この歴史を知る人も今や少なくなりました。

後世に戦争の悲惨さを伝えることを目的とし、広報にて募集、市民の方から寄稿していただいた貴重な体験談を、次の世代を担う人達へのメッセージとして送ります。